鎌ケ谷市政策評価表

政策の名称	22快適な暮らしの環境をつくります		
基本目標	2「自然と社会が調和する環境共生都市」をめざして	政策担当マネージャー	都市建設部長
重点政策該当有無		マネージャー氏名	谷口　光儀

Ⅰ　改革・改善内容（＝政策をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	環境共生都市を目指した、粟野の森（第2期）の整備や下水道の整備をはじめ、居住環境・緑地保全・水辺環境・環境衛生の充実、整備など、引き続き事業の優先度を捉えた事業を推進していく必要があります。
②①に基づく取組み結果	粟野の森（第2期）、東道野辺ふれあいの森の整備や準用河川、雨水貯留池の整備と、空家対策に係る具体の取組み、更には下水道普及率の向上等、各々の施策において優先度を踏まえ生活環境の整備を行いました。
③改革・改善内容	居住環境、緑地保全、水辺環境、環境衛生の充実を図るために、財源確保を常に意識 し、短期的に効果発現が出来得る方法の検討と、市民要望等を踏まえた上での事業優先度を考慮し、事業を進める必要があります。

Ⅱ　政策の目的・概要

①目的	対象	市民、事業者、団体等	意図（対象をどうするのか）	市民等が緑に包まれた居住環境の中で、安全で快適で文化的な生活を送れるようにします。
②政策の概要		すべての市民が緑に包まれた居住環境の中で、安全で快適で文化的な生活が送れるように、良好な住環境の整備、快適な公園・緑地の整備、うるおいのある河川・水路の整備、上下水道の整備、清潔な生活環境の整備を行っていきます。		
③環境分析（状況変化や今後の見込み・市民意向など）		東日本大震災後の住宅の耐震化や地球温暖化対策として緑への関心の高まり、またゲリラ豪雨や台風に備えた河川水路の治水安全度の向上などの施策に対する市民や議会の意見は、より一層の充実が求められています。		

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成28～29年度の施策の成果	粟野の森、東道野辺ふれあいの森の整備、二和川などの河川水路の整備、南初富、串先新田等の雨水貯留池の整備や下水道の整備を行い成果目標値の達成に向けて着実に事業を進めているとともに、更なる生活環境の改善策として空家対策計画策定に向けた調査を実施しました。

②施策成果指標

	wo	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値（32年度）
1	工事完了検査率	%	100.0	92	83.0	87.0	100
2	無料耐震診断相談会申込者への診断実施率	%	100	100	100	100	100
3	市民一人あたりの公園面積	㎡/人	2.9	2.9	2.9	3.0	3.8
4	浸水面積	ha	124.5	123.5	123.5	123.5	121.1
5	浸透桝設置個数	基	6,587	6,679	6,781	6,957	7,800
6	上水道普及率	%	76.5	76.5	76.6	集計中	上昇
7	下水道普及率（処理区域内人口/行政区域内人口）	%	59.0	62.8	64.0	65.2	68.0
8	下水道水洗化戸数	戸	25,665	27,460	27,902	28,297	29,300
9	生活排水処理率	%	76.6	76.9	87.8	80.2	94.2
10							
11							
12							
13							
14							

③政策の事業費	平成28年度決算	平成29年度決算	市民一人あたり事業費（29年度決算）	平成30年度予算
事業費（千円）	3,892,716	3,523,974	32	4,345,157

Ⅳ　評価・検討

①課題	何れの事業も多額の経費を必要とし効果発現に時間がかかるとともに、交付金が計画どおり配分されないことから、事業を進捗させることが困難です。		
②総合評価	3一部未達成	③総合評価の理由	施策成果指標について、良好な住宅の整備、上下水道の整備、うるおいある河川・水路の整備の一部において目標値を達成しているものがあるが、快適な公園・緑地の環境の整備、環境衛生の充実について目標値を達成できていなものがあるので、更なる施策の充実を図っていく必要があります。

Ⅴ　今後の方向性

①成果の方向性	↑向上	②コストの方向性	↑増加
③特に重点化する施策	施策3　うるおいある河川・水路の整備		
④上記方向性の説明	市民が安心して生活できる環境を確保する上で、災害対応は優先度の高い課題であることことから、都市活動等の阻害要因となる浸水被害を軽減させるために、河川・水路、雨水貯留池の整備を特に重要な施策として充実させる必要があります。		